

【愛媛大学 紙産業イノベーションセンター】

四国中央市の愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター内に2018年、新たに愛媛大学の紙産業イノベーションセンターが設置された。愛媛大学大学院には紙産業特別コースがあり、県と大学が連携して進める「教育・研究・地域連携」の取り組みが注目される。



紙産業イノベーションセンター棟（上）と
愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター。



【紙の三恩人。住治平・篠原朔太郎・薦田篤平】



【住 治平】 1832-1911（初代）1863-1915（2代）
初代は三島村（四国中央市）の庄屋に生まれ、実業家となる。紙商として活躍し、全国に販路を開拓した。2代は薦田篤平らと和紙販売の同業組合を設立。三極の紙を漂白する方法を開発し、役所で使う紙として宣伝した。初代の像は紙のまち資料館にある。



治平の住宅が残る町並み。

【薦田篤平】 1823-1897

旧上分村出身。農家による製紙を増やし、新しい技術を取り入れた。篠原朔太郎は薦田の製紙場で技術改良を実践している。薦田は越前や美濃の職人を招き、紙の品質を向上させた。



【篠原朔太郎】 1865-1952
川之江出身の製紙家で、紙の化学的改良と工法の動力化などに生涯努め、紙聖と称される。像は近年、紙のまち資料館へ移設された。